
がんばりたい

りゅう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
がんばりたい

【Nコード】
N6561A

【作者名】
りゅう

【あらすじ】
岩城誠二好物はしゃぶしゃぶ。本人は気付かないがやたらもてる！そんなやつが主人公の切ないおはなしです！

ぶろろーぐ(前書き)

どうもはじめましてはじめて投稿させていただきます！ 頑張っ
て書きますのでよろしくビームです！) 。 (

ぶろろーぐ

桜並木をただひたすら走る。 胸の辺りがただひたすら痛い、夢であってほしいその思いとともに…

俺の名前は、岩城誠二。

十四才 まあ特徴といえば親がなくて少し勉強ができるくらいだ。嫌味じゃないぞ頑張ってたんだ！

日伯父さんからきいたんだが、あとひと月でドイツに行かなきゃならんらしい…

もやっぱりあいつらに伝えるのが一番つらい… あいつらつつうのは俺の幼なじみ達だ…

どうしたんさ、なんかめつちや落ち込んでへん？なんかあんねやつたらおれきいたんで？宿題見せてくれたらやけど…。」

こいつは、井倉 裕矢 変な関西弁喋る一応親友兼悪友だ、顔と運動神経はいいんだが頭が悪い。

『ありがと…でもあとでいいか？まあ宿題は見せねーけどな！』

「わおーがんちゃんがお礼言つたよー、めずらしいねえ。」こいつは、井倉 七

海 裕矢の妹で俺のことをがんちゃん呼ばわりしやがる不思議ガールだ！

『ま…たまにはな…』 お前にも一緒にきてほしい…。 七・裕

「えっ…わかった」

れきりだまってくれた。

「おーいせいちゃん！井倉兄妹ー！おっはよう！」

二人とも俺が真剣だと伝わったのか、そ

の 如月 春菜 底抜けに明るくていいやつだ！ちなみにラブラブだ

「うっす！」

こいつは水島 康 春菜の

幼なじみで俺に何かとつかってくるが俺が負けたことはない！

『ああおはよ…おまえらも

あとで話があるんだが…あとでいつもの喫茶店でいいか？』

春

「えっ、あっうん大丈夫だよ…どうしたのせいちゃん？」

『あとでな』

春

「うんわかった」

第一話

そして放課後：喫茶「桜」にて
言ってたことなんだけどな…

『あのだ…朝

俺ドイツに行くんだ…』

裕

「はあっ！？嘘じゃ…ないみたいやな…」

七

「うそおん！いいなあ…何日間行くんだい？」

『いやわかんねえ、むこうでそのま
まかもしれねえし…出発は一カ月後春休み中なんだ…』

七

「そうかい…がちゃん…行っちゃうんだ」

春

「……皆、なにしんみりしてんの！せいちゃんに二度と会えないわけじゃないんだから！そんな顔してたらだめじゃない！」

裕

「せやな！まあこのあほのことやからはるちゃんゆって泣いてすぐ帰ってきよるわ！」

七

「そうだねい、んじゃあと一カ月は遊びまくりでしょう、ズバリそうでしょう」

康

「ドイツか…」

『ありがとう…俺絶対帰ってくるから！お前らと友達でほんとにおにょがぁっ たぁ』

俺は泣いた…親が死んで以来だこいつらと友達で本当によかった…

裕

「こいつマジ泣きや！ぎやははは！おい七海写メとれ！」

七

「アイサー！兄上これで一生うちの宿題奴隷としてこき使うのだあ」

前言撤回…もうこいつらやだ！

春

「そうねえ、ありがとう！」

いやなしだろ！かのじよだよねえ？

康

「まあその辺にしとけ！このおチビちゃん泣き虫だからまた泣くぞ？」

『うるせい！これからのびるんだよ！この…』

春

「はいはい！話はおわりかえんぜ！野郎どもお！」

康・誠

「はい…」

春

「あつあとせいちゃんあとであたしの家来てね」

『あつ…ああわかった』

康

「…」

第二話

春菜の家です。

「あらあらあらよばいかしら?」

春・誠『ちげえよ!!』

いきなりの問題発言をした方は星菜さんとても二児の母には見えな
い可愛い方だ!

星

「あら、春菜ちゃんざんねんねえ…」

春

「お母さん…せいちゃんとはなしがあるから…せいちゃんご飯たべ
てくでしょ?」

『ああいつもごめんな!せいなさんいいですか?』

星

「うんたくさん食べてってね!」

どたどたどたがしゃーん!

はあ…やつがきた…きてしまった…

「おにいちゃん」

がしつむぎゅつごきつばたーん…

こいつは佳菜子小学六年生…俺のことをおもちゃとして扱ってやがりマス…ワンパクすぎる悪魔だ……

佳

「おにいちゃん いらっしやい！お姉ちゃんと別れるの？仕方ないなあ佳菜子が体で慰めてあ・げ・る」

『わが義理の妹よ…お前のしょうらいがしんぱいだよ…』

星

「あらあらあら佳菜子よかったねえ…せいちゃん心配してくれてるわよ？」

佳

「きゃあ〜大丈夫だよ〜佳菜子は〜せいちゃんのおよめさんになるんだよ〜？」

春

「ミスターロリコンね…」

おいおいおいおいワタシガワルカタデスカ？

星

「あらあらあら…」

春

「お母さんせいちゃんとはなしがあるから…もう部屋行くね…」

なんか淋しそうだな…やっぱそうだな…どうしよう…俺やっぱり春菜が好きだ…でも…

『あつあとせいなさんと佳菜子にも話がありますから…ではまたのちほど』

星

「あらあらあら…結婚の申し込みかしら？だめっそれだけはだめ亡くなった主人が主人があ！」

佳

「ついにわたしの魅力に気付いたのねえ！はあふう…あ・な・た」

『はあ…』

第三話（前書き）

ちよとシリアスかな？ただ主人公の切ない気持ちを入れたと思っ
ております…あと主人公は照れ屋なのでチエリーです！笑 この意
気地なし！

第三話

『春菜…』

春

「はあー一カ月かあ…」

『春菜聞いてくれ…俺な…お前がいてくれてマジで感謝してる…親がいなくて寂しかったときにもお前やお前の家族…裕矢と七海それと康もな…いつも一緒にいてくれてありがとう…』

言わないと…言わないと…春菜に…

『それでな、あと一カ月あるだろ？その間にお前に決めてほしい…俺はどんな結果になってもいいから…』

春

「せいちゃん…わたしはせいちゃんのこと好きだよ…それはかわらないと思う…でもやっぱり寂しいよ…いつ帰ってくるかわかんないんだもん…うう…ひつく…おか…お母さんに言ってここに住めばいいじゃない」

『春菜…そんなことできないよ…わかるだろ？ごめんな…ごめんな…』

俺は静かに春菜を抱き締めた。俺はズルイここで突き放せば春菜は幸せになれるのに…。

春

「ごめんね…わたしずるいね…もうちょっと待ってかならず答えだすから。」

ちがう！ちがう！ずるいのはおれだ！春菜にすべて決めさせようと
してる！でも…

『うん…』

これだけしかいえなかった…ちくしょう！俺は弱い…春菜…

春

「はあ〜！よしっそろそろお母さんのおいしい〜ご飯ができるころ
だあ！いくぞ誠二くんそう」

『はいっ！春菜隊長！』

春菜はつよいな…くそ！でも俺は…春菜といたい…

全『いただきます』

かちゃかちゃ…沈黙が痛いな…でも話さないと…

全『ごちそうさま』

『星菜さんそれと佳菜子…話っていうのは…俺ドイツに行かなきゃ
ならないんです』

星

「あらあらあらそうなの？いいわねえ〜！あたしもいつてみた
いわあ！何日間行くのかしら？おみやげはソーセイジがいいわあ！
ぽっ
」

春・誠『……』

この人は…！

『ちがうんです！伯父さんの仕事の都合でいつ帰ってこれるかわかんなくて…それで』

星

「そうなの…本当みたいね…春菜は？どうするの？？」

ずきっ！胸が痛い…答えたくない…

『さっき話あったんですけど…まだ決まっていません』

星

「そう…わかったわ…時間が必要ね…しっかり話し合って決めなさい…」

『はい』

佳

「おにいちゃん…もう会えないの？佳菜子だよ！うっうっ…いかないで…」

『ごめんな佳菜子…きょうはもうかえるな…』

俺は走りだした…違う逃げたんだ…ちきしょお…！

第四話（前書き）

なんか書くのになれてきました！まだまだ拙い文章ですが…生暖かくエロくハアハアしながらみてください！（．．．）

第四話

市立桜東中学校

七・裕

「おはよう宿題奴隷くん」

くそう朝から殺意が芽生えた…

『貧乳…短足め（ぼそっ）』

七・裕

「なにかいったかな？（ぴくっぴくっ）」

『いえなにも？』

七・裕

「まてこらゝ！」

これが俺の日常…やれやれ

春・康『あいかわらずだな』

ここに居たいそう思える場所…あと少しか…辛いな

裕

「せやせや！今度皆で遊園地行かへん？（宿題奴隷の金で）」

にやり

七

「わおー！ナイスなのだ兄上！（宿題奴隷の金で）」
にやり

おいおいなんだよそのにやり は？そうかそうかそんなに俺と離れるのが寂しいか…可愛い兄妹よのう！

『よしっんじゃ俺がおごってやるぜ！ 今週末でいいか？』

七・裕

「えっでも…」

『いいっていいって！きにすんなよー ほらふたりともいくぞ』

にやり

春・康『……………にやり』

主人公なのに…

きょうで最後のテストだ！大丈夫かな？

七

「ひもじいよーひもじいよーひもじいよー」

はあ…五分も続くとうつとおしい！春菜は帰っちゃうし…普段から勉強ぐらいしやがれてんだ！仕方ない聞いてやるか…。

七

「ありがとぅ！やっぱりがんちゃんやさすうい」

こころを読むなうつとうしい！こやつなにものじゃ？

『でなんだ？イクラちゃん妹』

七

「次その名前で呼んだらいてかますぞカスが！！」

キャラかえやがった…トラウマでもあんのか？悪いことしちゃったな…謝ろっ…

『すまん！マジごめん！七海がそんな傷つくとは思わなくてさ…俺が悪かったこのとおりだ』

俺は頭を下げた。

ぼん！（七海顔まっかつか）七海は考えた…同じ年の友達で人の痛みがどれだけのんだろう？いやいない…この少年は特別なのだと改めて気付かされる…いつも一緒にいる春菜のことを考えると辛くなる。

七

「いついついいわよ！うちも言いすぎたし逆に悪いわ！じゃ、じゃあご飯おごってくれたら許したるわ」

素直になれない…辛いな…

『おっおう、それくらいなら…でもお前顔赤いぞ、そんなに怒らせ

ちまって悪かったな』

鈍感チエリーめ！いつかお前の隣を奪うからな〜によほほ〜。

七

「じゃあご飯はがんちゃんの手作りね〜！兄上も呼ぶのだ宿題奴隷よ」

『てめっ！あいつが来たら食材がなくなる〜！』

何かが変わった日。

第五話 変化（前書き）

急展開っす！まじかよってなるかも！意味不明な文ばかり書いて
すいません！あれなんです！フーリングなんです！あつ自
分左利きなんで！

第五話 変化

遊園地

裕

「ほほお！なかなかやん！誠二おまえしばくぞ」

なんで！？主人公だよ！皆大好きせいちゃんだよ？裕矢！貴様さで
いすていつくか？

七

「そうね！なかなかね！がんちゃんがいなけりやね」

貴様ら！馬鹿にしおつて！はっ！そうかそうか嫉妬か！なんとかお
れ様だけ彼女もちだし！けっけっけっ！あいかわらす可愛い兄妹よ
のう…ここは一つ大人の対応をせねばな…

『お…』

七・裕

「黙れこぞう！おまえにサ○がすくえるか！」

んっモ〇？何故？ほわい？いやさすがに頭のいいおれでもわからん
ぞ？ここは救急車を呼ぶべきだろうか？うーむ…

春

「馬鹿なんだから…先いくよん せいちゃん！手つなご」

はっいかんいかん！こんな可愛いミスウィートハニーがいるのに

何故この時気付かなかったんだろ？今にも壊れそうなガラスみたいな笑顔に…

ドイツに行くまであと10日

第六話（前書き）

なんか読み返してみると…自分ちよつと調子がつてません？不可抗
力つてやつですよ！髭なんて生えてないですよ！女の子なのにい女
の子なのにい！きいやゝ！失礼！ではでは？

第六話

ドイツまであと三日…

今日は井倉兄妹と桜公園にきている理由は…春菜が会ってくれないからだ…あと三日なのにまだ答えをもらってない…くそつくそつ！イラつく…あと三日なのにと俺の弱い心が叫ぶ…かろうじて井倉兄妹のおかげで笑えてる…ははっこの二人とはずっと友達でいたい。桜に願う…

裕

「ふう…お前ともあと三日か…色々思い出すな…俺が転校してきてからずっとお前と一緒にあった気がするわ…そう思うとなんやむっさ寂しいわ」

ぐっこいつこんなこと言うキャラになった…やべっちきしょー泣きそうだ！

『ははっお前がそんな事言うとはな…おでもっひっくおっばえどはな…れるど…めっめっちゃぐちゃ…さびしいぞちきしょー』

ぴろりろりん

はっ？なぜ？ほわい？

またかいまたなのかい？ DAMASARETA？

『きゝつ貴様ら』

七『やったのだよ兄上！鼻水がんちゃんゲットだぜなのだよ』

裕

「よくやったわが優秀なる妹よ！さて誠一よこれでまた日本に帰ってこないと行けなくなるな！なぜなら！」

七

「がんちゃんは…ひつぐぐす」

裕

「わいらの…」

七・裕『宿題奴隷やからな！』

『ぐぞううゝやられだぞんなゆにつゆにぞんはんそくだあ！井倉兄妹 大好きだ』

本当に願うこの二人の幸せとずっと友達でいられることを…

崩れる日常まであと十分…彼らはまだ知らない…あの誰よりも強くやさしい彼が深く傷つくことを…

第七話 絶望と絶交と（前書き）

ちよつとだーくかなあ？はあ萌えるような恋がしたいっすよ…なん
つって！ではではお楽しみあれ！

第七話 絶望と絶交と

絶望の時

彼らはまだ泣いていた一分一秒一生懸命…

全『ぷっ！あはははは！いいっひっひっ！』

裕

「ふう…なんかひさしぶりやったな！泣いたし笑えたしな！」

七

「せやな！ほんまなにしてんねやろね！」

『そうだな！でも気持ち良かったし楽しかった！俺たちずっと友達でいような』

七・裕『ぷっ！いやや！しんゆうや』

また笑った！この時がずっと続けばいい！

…絶望の時まであと一分…

裕

「おっ！あっ！ここにおんの春菜やん！」

七

「ほんまやなにしてんねやろ？ 康くんもいるじゃん」

『じゃあちよつと悪いけど脅かそうぜ』

そろーりそろーり…

「がなんも」

ひねもて

康「もうお前を離さない好きだ春菜！愛してる」

がばっ！二人は抱き合いキスをした……

ぴしっぴしっぱりーんがらがらがら……五人の日常は崩れた……

がさつ

春菜

「えっうそっ！せっせいちゃん」

[illegible]

ばっ誠二は走りだした！

裕

「おどれっ！おどれら！！なにっなにさらしとんじゃああああ
！」

ばきっがらがら！がすっごすっびちゃ！

七

「やめ！兄上！兄上！がんちゃんがかなしむ！」

裕

「くそつくそおおお！おどれら！わいはわいは！ゆるさんかな
！」

七

「うちもゆるさんから！あの誰よりも強くやさしいがんちゃんか
したんやからなあ！！！」

裕

「二度とわいらの前に現われんな！！共！！！」

春菜

「あたしっあたしっあたしっがあ！！うっうっうわあああああ！！
！！！」

康

「春菜っ春菜っ春菜あ俺がいるから……ごぶっ！ずっどずっどぞばに
いるから！春菜あああ」

いづれこつなる運命だつたの今絶望の時にいる彼ら達の時が今…

第一部完

第二ぶろろーぐ

あの日すべて壊れてしまった…ある少年はすべてあきらめ…ある少年は守るため…ある少年は罪悪感と戦い…また時は動きだす…

『ふう…日本かあ…裕矢と七海げんきかな？』

空港に降り立ったのは美少年いや美青年と形容していいすらつとした容姿の誠二がたっていた…

時は動きだす…希望へと…

キンコンカーンコンコン

「ふいゝ寝すぎたわ！腰いたゝ！」

そこには高校三年生に成長した裕矢がねていた！もともとよかったガタイがさらにでかくなり野性味あふれた青年になった

七

「兄上ゝかえつぞこの野郎！」

ガラガラガラ突然入ってきたこの美少女は不思議系二重人格少女七海だ！

帰り道ひさしぶりに桜公園にきている…

裕

「そつえばな、あいつ帰ってくんねんで」

七

「えっ？だれなんだい？」

裕

「誠二」

七

「はあっ！？なんでうちきてへん！どつどないしょ！びっ美容院
いかな！エステいかな！あとゝねっネイルネイルサロン！？」

裕

「落ち着け」

七

「ふあっうっはっはい…」

裕

「ふふん…実はなもう後ろにいたりして！」

七

「うそこけ！ぼっとな便所に沈めんぞ」

『ただいま』

七

「うつさい！！今取り込み中じゃおどれも沈め…え？」

『ふふっ変わってないねえ久しぶり七海！裕矢！』

七・裕『だれや！？あんたみたいな男前知り合いにおらんわ！』

『なつかすういつす！なんか日本に帰ってきがするわナイスユニゾ
ン！でもひでえな俺だよ誠二だよ』

七・裕『まじで！？なんで！？背のびすぎやん！』

『しつけえよ！ほらペンダント！ドイツにいく前もらったろ？だから！ただいま！』

七・裕『誠二…！！がんちゃん！！』

七・裕『おかえり宿題奴隷！』

『いきなりかよ！！俺の感動を返せええ！！』

笑えてるよしっ笑えてる！楽しい！またここでこの二人と！だけど

まだ足りないおれは…おれはケリを付けるために帰って来たんだ！

裕

「しかしまた…ごっつい男前になって帰ってきよったな…」

七

「（やばいやばいうちめっちゃ下品やったやんどないしょ）はう
」

「んなことねえよ！裕矢お前の方がよっぽど男前だな！うんまちげ
えねえ」

裕

「嫌味か…はあ〜七海こいつ全然変わつとらん…安心せえまだ…鈍
感チエリーや」

「はあ？なんだそりや！変わってねえのはおめえらじゃん…親友達
よ！」

全「ぶつぶあつはははは」

七・裕「改めてお帰り誠二これからよろしくっ！」

「ああ！ただいまだ！七海裕矢」

やさしくて強い誠二が帰ってきた。また絶望に吞まれてしまうのだ
ろっか…それとも…

第二シーズン一話

喫茶〔桜〕

裕

「しっかし、どないしたんや急に帰ってきて…友達おらんのか？」

七

「ちょっと兄上！ストレートすぎますよ！もっとソフトにいかないと泣き虫がんちゃん…発動しちゃいますわよ」

『いたよ！七海微妙に優しくなってるけど…なんか傷つくよ！心にぽっかり穴が開いたよ』

七

「（ななな…やってしもた！優しくするつもりが…あ…うちのあほ）（ごめんなさい…）」

『？落ち込むなよ七海らしくねえぞ？まあ本当の意味での友達ならおまえらしいねえけどな』

七

「そうだよない！でもあんまり調子のんなよ宿題奴隷よ（くそ…どっかに素直になれる薬ないやろか？）』

『ふふっやっぱり変わってないねえ…やっぱりその七海のほうが俺は好きだよ』

七

「（かああああ、ぼん）はうう」

『?』

裕

「（鈍感チエリーめ）まあ冗談はさておき…どうした？」

『ああ…俺大学は日本のところ受けようと思ってな…今日は桜東高校に転入手続きしにいったんだよ！あとまあこっちにやり残したことがあつてさ』

裕

「あのゴミ共の事が…」

七

「なんで！？また辛い思いするかもしれないよ！うちはいやや！がんちゃんやめようや！」

『ありがとな！七海！裕矢！俺のために怒ってくれて…でもいやなんだよ…むこうだつてきつと辛いんだよ…あいつは…きつと自分を責めてる…俺のせいで…』

裕

「はあ！？あんなもん自業自得やんけお前の方がよっぽど傷ついたやろ…もつあんなおまえみたないねん」

『すまん…でも今は逃げてるだけなんだ…俺はやなんだよ…誰かが誰かを憎むのが…』

七・裕『はあゝあゝ』

裕

「負けたわやつぱりお前は誠二だよ！このお人好し！」

七

「（やつぱりすごいながんちゃん…）仕方ないのよねん…」

『うしっじゃあいまからいくか！』

七・裕『はあ！？』

『はあつて…春菜んちだよ…きまってるじゃん』

（やつぱりお前には一生勝てんわ）

春菜の家

【ぴーんぽーん】

「はいどちらさまかしら」

『ご無沙汰してます俺です誠二です』

がたんばたつきゅうくすぽん…

全（すぽん？）

星

「せいちゃん！！」

ぎゅううううー！

星

「ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい
ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい
ごめんなさいごめんなさい…うっうっ」

『あの？星菜さん？』

星

「こんなことしたってあなたにしたことが償えないってわかってる
でも…でも」

『もういいんです…誰も悪くないんです…だから星菜さんが謝るこ

苦しいよ…だから笑って…お帰りなさいって言って」

佳菜子

「おっお おがえり なざいっ」

『はいただいま』

星・佳・七『はうあ』

裕矢（こいつ！おっおとしやがった！はっはっはっやっぱ！誠二だよ）

『春菜はいるかい？』

佳『おにいちゃん…私おねいちゃんにいっぱいひどいことしちゃったの…おにいちゃんの話聞いたらやっぱり…その…』

『その事についてはごめんおれに非がある…いつまでも先のばしにしてたからな…つらかったな…本当は俺が謝らなきゃいけないのに本当にごめんなさい』

全（一番辛いはずなのに）

裕矢

「お前が悪かったら…俺なんて地獄に何回落ちてるか…だからお前は笑ってみんなを救ってろこの！お人好し鈍感チエリー奴隷」

『はい…』

第二部二話（前書き）

なっ なっ なんとぅー！感想がキタのですっー！ぶりゆうー感激い し
かもアドバイスまでいただいて…ワタクシうれしいです！次回から
新キャラ出していこうと思うんで…よろしこねえ

第二部二話

春菜の家

星菜

「でも今、春菜に会うべきじゃないと思うの。」

だよな…勢いで来ちゃったけど、いきなりはおびえちゃうし…

『わかりました、申し訳ないですけど、星菜さんの方から言っておいていただけますか？康や春菜も心の準備が必要でしょうし』

星菜

「…気にしないで、お茶も出さずにおそくまでごめんね…裕矢くんも七海ちゃんも…」

『いえいえ、じゃあよろしく願いします…裕矢、七海帰るか』

七海・裕矢
ん』

『おうっじゃまたな佳菜子ちゃん星菜さ

佳菜子

「うんっ！じゃあまた学校でね！」

ふうつつかれたなあ…あの家族変わってなかったなあ…今春菜はやっぱり康といえるのかなあ？　ははっ何考えてんだろ…

七海

「どしたあ〜がんちゃん？　やっぱり辛いんじゃないかい？」

『いやあ…明日から学校だろ？　ちょっとだけ不安なんだよ…』

七海

「なんじゃあ〜さよか…まあ一緒のクラスになったらパシリ決定っすから…（悪い虫がついたらどないしよ〜）」

『マジかよ！　やだよ！　転校そうそうかよ！』

裕矢

「せやなあ！　さすがが妹！　すてキングな提案や！　誠一、色々教育したるからな」

ニヤリ

『はあ〜』

その後他愛のない会話をしてそれぞれの帰路に着いた。

春菜の家

春菜

「ただいまゝあれっ？お母さん誰か来てたの？」

今帰ってきたのが春菜…今は康のおかげでだいぶたちなおってきた…

星菜

「お帰りなさい…春菜…そのことで話があるの。座りなさい…」

春菜

「えっ…はい」

なんだろう？いつものお母さんと違う…

星菜

「今日…せいちゃんが来たのよ…」

えっ…うそっ…なんで…

春菜

「本当なんだね…それでその…何しに」

こわい…こわい…こわい…こわい…こわい…こわい…こわい

星菜

「今はいいの…春菜？単刀直入に聞いわ、あなた三年前のことどう思う？」

こわい…こわい…

春菜

「……わたしは、許されないことだと思う…外国に一人で行って本当に淋しかったのは、せいちゃんのほうなのに…わたしはまけた…康の優しさに甘えてしまった…正直謝りにいく顔ももってない…会うのが怖い」

最低だ私…ずっとだれかに甘えて…

星菜

「そう…わかった…今のあなたをせいちゃんにあわせるわけには、いかないわね…康ちゃんと二人話し合いなさい…」

春菜

「わかった」

佳菜子

「（おねえちゃん…）」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6561a/>

がんばりたい

2010年10月21日23時00分発行